

都市の緑  
3 表彰

緑 が つ な ぐ

町 ・ 人 ・ 暮 ら し

一般財団法人第一生命財団では、公益財団法人都市緑化機構と共に、「緑の環境プラン大賞」(共催)、「緑の都市賞」「緑化技術コンクール」(いずれも特別協賛)の、「都市の緑3表彰」に取り組んでいる。これらは、都市緑化を通じ、環境保全、ヒートアイランドの抑止、二酸化炭素の削減、緑のまちづくりや植栽活動を通じたコミュニティの形成などに貢献する事業を支援、顕彰するもので、全国各地で、すでに多くの取り組みが実績をあげている。これらに選出された事業のなかから、とくに都市環境の向上やまちづくりに資する事例を取材し、緑を通じたまちづくりを紹介していく。

取材・文:佐藤真 photo:坂本政十賜

[第44回]

緑の都市賞

国土交通大臣賞：緑のまちづくり部門

## ばらのまち福山「ばらの花いっぱい運動」

## ローズマインドによるまちづくり

JR福山駅の改札を出るやいなや、ばらの甘い香りが鼻に飛び込んできた。目の前のロータリーには、ばらの

花壇がしつらえてあり、幾分ピークを過ぎたとはいえ、いくつもの大輪が私たちを迎える。「ばらのまち福山」とはよく言ったものだ。まさか福山駅に到着したとたんに、ばらたちの洗礼を受けることになるとは、思いもし

ばらのまちづくり発祥の地「ばら公園」。2024年に植栽デザインをリニューアルし、約670種、約7000本の多彩な品種のばらを楽しむことができる



緑町公園の六角錐状のピラミッド型ばら花壇「ローズヒル」。正面の花壇には、歌、リズム、踊りなどの音楽にかかわる品種名のばらが植えられている



思いやり・やさしさ・助け合いの心を表す「ローズマインド」は、福山のまちづくりのベースとなる言葉として市民に根付いている

なかった。まさに、福山は「ばらのまち」である。ばらの力でまちを活性化させ、未来に向けて持続可能なばらのまちづくりを進めているまちなのだ。

福山市は、広島県の東部、瀬戸内海の中央に位置する、風光明媚で穏やかな海と緑の島々が織りなす自然美に恵まれた、人口約45万人の中核都市だ。70年近くの長きにわたって、ばらを戦災からの復興と希望の花として市民は愛し慈しんできた。市民のこころのなかに根付いたこの想いは、やがて「ローズマインド(思いやり・優しさ・助け合いの心)」という言葉を生み出し、福山市全体に潤いと活力を与え続ける。

戦争の傷痕が癒えない1950年代半ば、優雅に咲き誇り華やかな姿をもつばらは、戦後の復興と共に全国的に人気が高まる。福山市においても、ばらの愛好家団体「福山ばら会」が発足し、家庭でのばら栽培が普及する。こうしたなか、まちの復興に向け懸命に生きる市民の間で、「花を植えよう。荒廃したまちに潤いを与え、人々のこころに和らぎを取り戻そう」という機運が次第に高まっていく。当時の市長は、「公園をつくるのであれば特色のあるものにしたい」という希望があり、その想いも重なって南公園(現在のばら公園)には市民によって約1000本のばらが植えられた。これを契機に本格的なばらのまちづくりが始まった。

1965年に後の「福山明るいまちづくり協議会」となる「福山市を美しくする委員会」が発足し、「花は美しい、それを愛し育む人の心はなお美しい」を合言葉に、ばらづくりを中心とする花いっぱい運動が起こる。時を同じくしてばら公園の整備に積極的にかかわった花園町町内会が、1968年に全国美しいまちづくり賞・最優秀

賞を受賞する。ばら公園の受賞記念碑に刻まれた「ここに善意の花ひらく」という文言は多くの共感を呼び、市内各地で市民の手による「ばら花壇」が整備されていく。そうしたなか1969年には、ばら花壇コンクールが始まる。家庭の庭先から道沿いの小さなばら花壇など市内の至る所で、地域住民や子どもたちが育てたばらが咲き誇る姿を誰もが目にできるようになるのだ。

## 100万本のばらのまち福山の実現

1956年、ばらの愛好団体「福山ばら会」が「第一回バラ展示会」をばら公園で開催。この展示会は、当初愛好家らが育てたばらを展示するというものだったが、参加者の裾野が広がり運営体制も整備されるにつれ、その規模も拡大する。ばら鑑賞にとどまらず誰もが楽しめる福山最大のイベント「福山ばら祭」となり、ばらは市民にとってより身近に親しまれるものになっていく。

1985年4月、ばらが市の花に制定される。翌1986年には、市制施行70周年を記念し、福山と名の付く最初のばら「ローズふくやま」が誕生する。ばらは文字通り福山市のシンボルとなった。2006年5月、ばらのまちづくりの発祥の地である「ばら公園」は、世界バラ会連合優秀庭園賞を受賞する。

時は下り2010年3月、これまでのばらのまちづくりをよりいっそう前進させるために、市は「ばらのアクションプラン」を策定した。福山の知名度・都市ブランドの向上、シンボルとなる拠点の充実・拡大、市民のばらに対する「想い」の共有を目指すというもので、具体的な目標として、当時のばらの植栽推計本数55万本を、市





緑町公園「ばらの野史ミュージアム」。ローズヒルの頂上部には「ばらのまち福山」の歴史やばらの歴史などが学べる展示パネルが設置されている



福山の名を冠した11種類あるばらの一つ「ラプリーふくやま」。「レーゲンスベルグ」と「オレンジジュエル」の2種類から市が開発したミニばら。花壇や鉢植えで楽しめると市民に好評



アーチにつるを這わせて立体的に演出



ばらを際立たせるため宿根草などと組み合わせで植栽されている

制施行100周年にあたる2016年に100万本とすることを掲げた。

この計画の実現のため、各地域の拠点となる公園にばら花壇を整備したほか、福山駅周辺や国・県道などの主要道路への植栽、またJR福山駅からばら公園につながるローズロードの整備や全公立小中学校にばら花壇の設置などを行った。また、こうした環境整備のほかに、市民へのばら苗配布や出生祝い、入学記念、新築記念などでのばら苗配布、地域などが整備するばら花壇への補助、地域ばら花壇の栽培リーダーを養成するための福山ばら大学の開催などさまざまな取り組みを市民、事業者、行政が役割分担しながら協働により進めたのである。

2015年9月、これまでの取り組みをさらに発展させるための新たな目標を明確にするために「福山市ばらのまち条例」が制定され、5月21日を「ばらの日」と定めた。そして2016年5月21日、念願の「100万本のばらのまち福山」が実現した。

「ばら栽培のことならなんでも聞いて」。ばら公園内に設置されたばらの栽培相談所では、福山ばら会のメンバーたちがばらに関するどんな相談にも応じてくれる



## 世界バラ会議の開催と都市ブランドの確立

2017年より世界バラ会連合が主催する世界バラ会議の誘致活動に取り組んできた福山市は、今年2025年5月(18日～24日)に福山大会を実施した。世界バラ会議とは、世界40カ国が加盟する世界バラ会連合(The World Federation of Rose Societies)最大の、3年に1度開催されるばらに関する国際会議で、加盟国からばらの研究者、生産者、愛好家などが約600～700人が一堂に会して交流したり知識を深めたりする場のこと。アジアでは、2006年の第14回大阪大会以来2回目の開催となる。

福山城公園プロムナードでの歓迎レセプションで始まり、ばらの品種保存および耐病性をテーマにした講義、ばらを育成する地域花壇や学校の視察、市中心部の商店街では交流会なども行われた。また関連イベントとして、「ばらの世界を旅する」をテーマとしたばらの祭典「Rose Expo FUKUYAMA 2025」を同時開催し、国内外から多くの来場者を迎えた。

福山市の「ばらのまちづくり」の特徴は、「市民がここを込めて育てているばら花壇が地域全体に広がっていることにある」と言うのは、福山市世界バラ会議推進室・ばらのまちづくり推進担当次長の市川宏治さんだ。「公園だけでなく、家の軒先や主要道路、小学校などの至る所で、ばらが美しく咲き誇り、道行く人々のところを癒し、安らぎを与え、まちなかの良好な景観形成につながっていると共に、住民同士のつながりを深めている」というのである。

戦後、まちの復興の願いをばらに託した市民によるばらの植栽は、魅力的で特色のある都市公園の整備や良好な景観づくりにとどまらず、地域の絆を深めるシビックプライドとなり、「ばらのまち福山」という都市ブランドの確立へとつながっている。そしてばらから生まれた勇気や希望、多様なコミュニティ活動は、花や緑が時代を超えて人々にこころの豊かさをもたらし、暮らしに彩を与え、まちの発展に大きく寄与する力があることを示した。

現在福山市では、福山版ガーデンツーリズム推進計画「ローズマインドに会おう旅」に取り組んでいる。この取り組みによりばら公園やまちなかに広がるばら花壇、さらには地域の特産品やイベントが一体となり、訪れた人々に福山の魅力を深く感じてもらえるような仕組みを構築し、観光振興につなげていくだけでなく、ばらを通じた交流や連携による地域コミュニティの活性化に取り組んでいる。さらなる持続可能なばらのまちづくりに期待したい。

福山市世界バラ会議推進室・ばらのまちづくり推進担当次長の市川宏治さん



ばらを近くで見て感じ、安心してばらを楽しめるように、ばら公園内には散策路がはりめぐらされている



福山城公園(福山駅北口スクエア)。福山駅北口スクエアからのばら越しの福山城。写真映えするスポットと評判だ

### 【参考文献】

市川宏治「都市公園の整備から都市ブランドの確立へ」(『都市公園』no.242 公益法人東京都公園協会発行 2024)、市川宏治「ばらの力でまちの活性化[人の想いをつなぐローズマインドばらのまちづくり福山]」(『都市緑化技術』no.123 公益財団法人都市緑化機構発行 2024)、市川宏治「ばらのまちづくり発祥の地〈ばら公園〉リニューアル」(『公園緑地』Sep.2024 vol.85 一般社団法人日本公園緑地協会 2024)